

プレジデント 全図解! 医者・病院、介護選び…安心ガイド

PRESIDENT

毎月第2・第4月曜日発売 2010 1.4号

特別定価 690円

第一・第四月曜日発行 第八巻
昭和十八年五月八日 第三種郵便物認可

2010年版! 自分、家族、親を救う情報満載



Ryosuke Tsuchiya

Kunio Fujino

Kouzui Kida

Gou Watanabe

Shinei Kudo

「病院、介護、 葬式、墓」 大百科!



全図解! 「困った事態別」完全シミュレーション

- part ① 「病院・医者」ワザありの探し方・付き合い方
- part ② 「老人ホーム、介護」100%安心の鉄則
- part ③ 「葬儀、お坊さん」で失敗しない知恵
- part ④ 「お寺、お墓」緊急時&準備の基本

親族トラブルを回避する「遺言書キット」の使い方
明朗会計、高品質……
イオン「葬儀ビジネス」の衝撃

最新治療データ&独自調査で判定!

www.president.co.jp

全国4000病院ランキング&名医300人大図鑑

そのくらいのつもりでやるのがちょうどいいということです。呼吸器だけに偏ると俯瞰する目が弱くなるということでしょう。やはり全体を見るべきなのです。そして、最新の情報を入れて自分を常に磨き、とぎすまされた感覚で患者さんを普通に診ることです」

ロボット手術の「ブラックジャック」

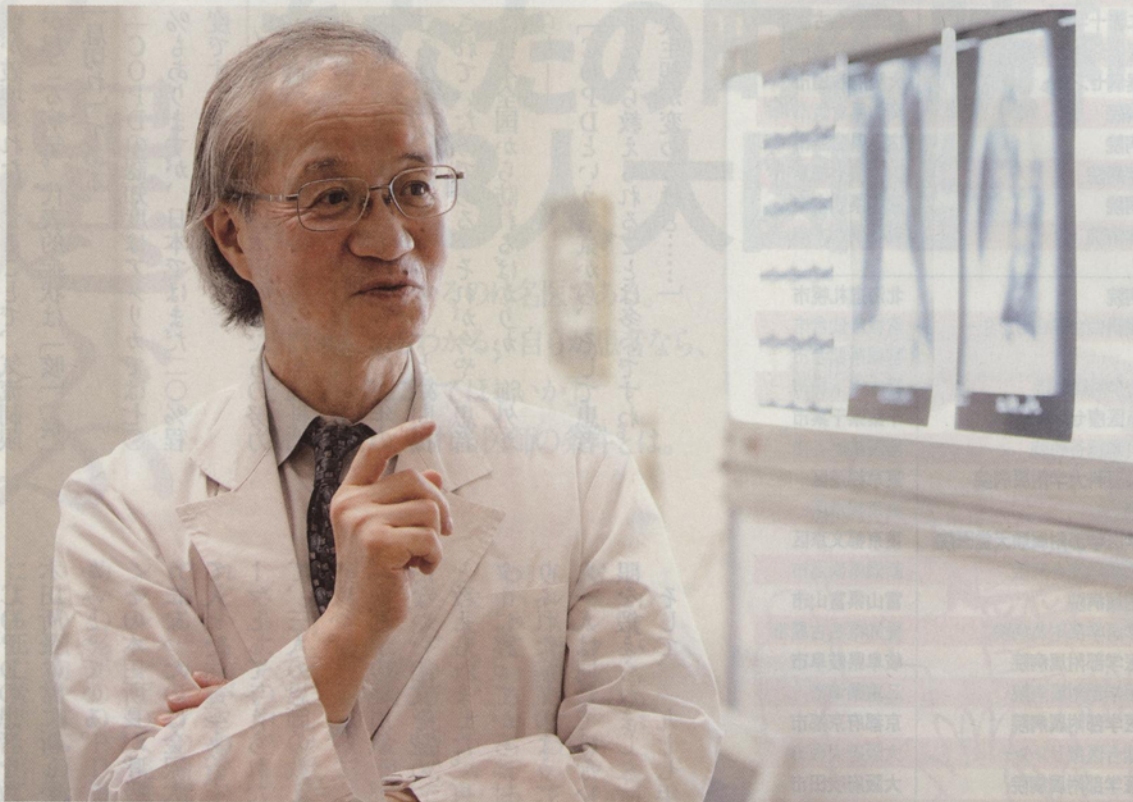
医療は急速な進歩を見せている。とりわけ、それが患者にもはっきりわかるのが心臓外科の手術。「体にやさしい医療への進歩」である。

狭心症、心筋梗塞に対する治療としては冠動脈バイパス手術がある。動脈硬化で狭くなったり、詰まってしまった冠動脈に新しく血液の流れる道、バイパスをつくる手術である。これが人工心肺を必要としないオフ・ポンプに発展して、九三年からは開胸部をわずかに六分で行うミッド・キャブとなった。

さらに、冠動脈バイパス手術を局所麻酔で行うアウェイク手術が九八年に行われ、〇四年からはダ・ヴィンチという遠隔医療機器を使つてのロボット手術——これらすべての手術で、日本の第一歩を示してきたのが、まさに「ゴッドハンド」金沢大学病院心肺・総合外科、東京医科大学病院心臓外科の渡邊剛教授である。

「新しい技術を導入しているのは、患者さんを一日でも早く治すためです」

患者さんに
学ぶことは
いまだ少なくない



日本医科大学呼吸ケアクリニック・所長
木田厚瑞 ● Kozui Kida

1945年、石川県生まれ。75年金沢大学大学院医学研究科修了、東京都老人医療センター勤務。77年カナダ・マニトバ大学に留学。80年に帰国後、東京都老人医療センター呼吸器科部長を経て現職。著書に『肺の生活習慣病（COPD）』『肺の話』など多数。

渡邊教授はきっぱり言い切る。奇をてらっているのではない。

「患者さんにかかる負担を少なくしようと考え、おのずとそうせざるをえなくなってくるのです。たとえば、二〇年くらい前にオフ・ポンプでの手術を始めたのは、人工心肺を使って手術を行うと、人工心肺で具合が悪くなる患者さんが一、二%いたからです。さらに、肝臓、肺を悪くしたり、感染症を起こす患者さんも少なくなかった。何とか影響を小さくしようと考えたら、人工心肺をなくしての手術にいきついたのです」

より正確に、より早く血管を吻合するために、動いている心臓を抑えるスタビライザーをつくり、また、自分自身の腕も磨いた。

「ひらめきなんです」

患者を思い、少しでも負担の少ない手法を追いつめていくからこそ、ひらめきではないだろうか。

局所麻酔下で行うアウェイク手術は、より高齢者に向く。全身麻酔下での手術では術後に認知症になるケースもあるからである。

そして、ロボット手術。

「胸に四カ所、一〇ミ程度程度の刺し傷ができるだけです。とにかく体に傷をつけず、患者さんには早く帰宅して、元気になってもらいます」

入院期間の短縮には、超低侵襲、体にやさしいロボット手術が最適であるケースは多いという。今、日本の心臓外科でロボット手術を行うのは渡邊教授、ただ

治療法	氏名	病院名	所在地
脳卒中外科	伊達勲	岡山大学病院	岡山県岡山市
	永廣信治	徳島大学病院	徳島県徳島市
	永田 泉	長崎大学医学部・歯学部附属病院	長崎県長崎市
	藤岡正導	済生会熊本病院	熊本県熊本市
	坂井信幸	神戸市立医療センター中央市民病院	兵庫県神戸市
	宇野昌明	川崎医科大学附属病院	岡山県倉敷市

大腸がん

内視鏡	斉藤裕輔	市立旭川病院	北海道旭川市
	安藤正夫	金上病院	宮城県角田市
	山野泰穂	秋田赤十字病院	秋田県秋田市
	井上雄志	東京女子医科大学消化器病センター	東京都新宿区
	坪水義夫	坪水クリニック	東京都渋谷区
	片倉重弘	片倉クリニック	東京都江戸川区
	五十嵐正広	癌研有明病院	東京都江東区
	益満 博	ますみつ消化器科	東京都国分寺市
	工藤進英	昭和大学横浜市北部病院	神奈川県横浜市
	榎田博史	昭和大学横浜市北部病院	神奈川県横浜市
	町田マキヨ	町田内視鏡クリニック	神奈川県横浜市
	藤井隆広	藤井隆広クリニック	東京都中央区
	入口陽介	東京都多摩がん検診センター	東京都府中市
	趙 栄清	大津市民病院	滋賀県大津市
	杉本憲治	杉本憲治クリニック	大阪府吹田市
	津田純郎	岡山市医師会総合メディカルセンター附属診療所	岡山県岡山市
	田村 智	田村クリニック	高知県高知市
	田中信治	広島大学病院	広島県広島市
	鶴田 修	久留米大学病院	福岡県久留米市

胃がん

内視鏡	長南明道	仙台厚生病院消化器内視鏡センター	宮城県仙台市
	小原勝敏	福島県立医科大学医学部附属病院	福島県福島市
	多田正弘	埼玉県立がんセンター	埼玉県伊奈町
	藤崎順子	癌研有明病院	東京都江東区
	浜田 勉	社会保険中央総合病院	東京都新宿区
	後藤田卓志	国立がんセンター中央病院	東京都中央区
	矢作直久	虎の門病院	東京都港区
	南 康平	丹羽病院	神奈川県小田原市
	小山恒男	佐久総合病院	長野県佐久市
	小野裕之	静岡県立静岡がんセンター	静岡県長泉町
	芳野純治	藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院	愛知県名古屋市中
	飯石浩康	大阪府立成人病センター	大阪府大阪市
	豊永高史	神戸大学医学部附属病院	兵庫県神戸市
	春間 賢	川崎医科大学附属病院	岡山県倉敷市
	松井敏幸	福岡大学筑紫病院	福岡県筑紫野市
	福島紀雅	山形県立中央病院	山形県山形市
外科	木下 平	国立がんセンター東病院	千葉県柏市
	佐野 武	癌研有明病院	東京都江東区
	片井 均	国立がんセンター中央病院	東京都中央区
	山口俊晴	癌研有明病院	東京都江東区
	円谷 彰	神奈川県立がんセンター	神奈川県横浜市
	梨本 篤	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県新潟市
	小寺泰弘	名古屋大学医学部附属病院	愛知県名古屋市中
	寺島雅典	静岡県立静岡がんセンター	静岡県長泉町
	矢野雅彦	大阪府立成人病センター	大阪府大阪市
	古河 洋	市立堺病院	大阪府堺市
	中根恭司	関西医科大学附属枚方病院	大阪府枚方市
	平塚正弘	市立伊丹病院	兵庫県伊丹市
	笹子三津留	兵庫医科大学病院	兵庫県西宮市
	栗田 啓	四国がんセンター	愛媛県松山市
	二宮基樹	広島市立広島市民病院	広島県広島市

肺がん

肺がん	稲沢慶太郎	仙台厚生病院	宮城県仙台市
	朝戸裕二	茨城県立中央病院	茨城県笠間市
	秋山博彦	埼玉県立がんセンター	埼玉県伊奈町
	星 永進	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	埼玉県熊谷市
	吉田純司	国立がんセンター東病院	千葉県柏市
	飯笹俊彦	千葉県立がんセンター	千葉県千葉市

治療法	氏名	病院名	所在地
肺がん	浅村尚生	国立がんセンター中央病院	東京都中央区
	池田徳彦	東京医科大学病院	東京都新宿区
	奥村 栄	癌研有明病院	東京都江東区
	池田晋悟	三井記念病院	東京都千代田区
	鈴木健司	順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京都文京区
	呉屋朝幸	杏林大学医学部付属病院	東京都三鷹市
	中山治彦	神奈川県立がんセンター	神奈川県横浜市
	坪井正博	神奈川県立がんセンター	神奈川県横浜市
	岩崎正之	東海大学医学部付属病院	神奈川県伊勢原市
	小池輝明	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県新潟市
	近藤晴彦	静岡県立静岡がんセンター	静岡県長泉町
	丹羽 宏	聖隷三方原病院	静岡県浜松市
	小田 誠	金沢大学医学部附属病院	石川県金沢市
	光富徹哉	愛知県がんセンター中央病院	愛知県名古屋市中
	東山聖彦	大阪府立成人病センター	大阪府大阪市
	多田弘人	大阪市立総合医療センター	大阪府大阪市
	松村晃秀	国立病院機構近畿中央胸部疾患センター	大阪府堺市
	伊達洋至	京都大学医学部附属病院	京都府京都市
	吉村雅裕	兵庫県立がんセンター	兵庫県明石市
	宮本好博	国立病院機構姫路医療センター	兵庫県姫路市
虚血性心疾患手術・バイパス手術や心筋梗塞二次的弁膜症などの手術	住友伸一	日本赤十字社和歌山医療センター	和歌山県和歌山市
	奥村典仁	倉敷中央病院	岡山県倉敷市
	三好新一郎	岡山大学医学部歯学部附属病院	岡山県岡山市
	片岡和彦	広島市立広島市民病院	広島県広島市
	岡田守人	広島大学病院	広島県広島市
	岡部和倫	国立病院機構山口口部医療センター	山口県宇部市
	山下素弘	国立病院機構四国がんセンター	愛媛県松山市
	岩崎明憲	福岡大学病院	福岡県福岡市
	杉尾賢二	国立病院機構九州がんセンター	福岡県福岡市
	最勝寺哲志	熊本中央病院	熊本県熊本市
	樋上哲哉	札幌医科大学病院	北海道札幌市
	松居喜郎	北海道大学病院	北海道札幌市
	道井洋吏	心臓血管センター北海道大野病院	北海道札幌市
	岡林 均	岩手医科大学附属循環器医療センター	岩手県盛岡市
	南 和友	日本大学板橋病院	東京都板橋区
	天野 篤	順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京都文京区
	吉田成彦	新葛飾病院	東京都葛飾区
	高梨秀一郎	榊原記念病院	東京都府中市
	南淵明宏	大和成和病院	神奈川県大和市
	磯村 正	葉山ハートセンター	神奈川県葉山町
	渡邊 剛	金沢大学医学部附属病院	石川県金沢市
	大川育秀	豊橋ハートセンター	愛知県豊橋市
	米田正始	名古屋ハートセンター	愛知県名古屋市中
	浅井 徹	滋賀医科大学医学部附属病院	滋賀県大津市
	夜久 均	京都府立医科大学附属病院	京都府京都市
	小林順二郎	国立循環器病センター	大阪府吹田市
	東上震一	岸和田徳洲会病院	大阪府岸和田市
	吉鷹秀範	心臓病センター榊原病院	岡山県岡山市
	小宮達彦	倉敷中央病院	岡山県倉敷市
	羽生道弥	小倉記念病院	福岡県北九州市

胃がん

腹腔鏡	小嶋一幸	東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都文京区
	北川雄光	慶應義塾大学病院	東京都新宿区
	福永 哲	癌研有明病院	東京都江東区
	松田 年	駿河台日本大学病院	東京都千代田区
	桜本信一	北里大学病院	神奈川県相模原市
	林 賢	昭和伊南総合病院	長野県駒ヶ根市
	宇山一朗	藤田保健衛生大学病院	愛知県豊明市
	瀧口修司	大阪大学医学部附属病院	大阪府吹田市
	谷川允彦	大阪医科大学附属病院	大阪府高槻市
	永井英司	九州大学病院	福岡県福岡市
	北野正剛	大分大学医学部附属病院	大分県由布市



金沢大学医学部附属病院・教授

渡邊 剛 ● Go Watanabe

1958年、東京都生まれ。89年金沢大学大学院医学研究科修了。その後、独ハノーファー医科大学に留学。金沢大学などを経て、2000年より金沢大学医学部教授。05年からは東京医科大学教授も兼務。日本ロボット外科学会理事長。

一人である。

「早くて、出血しない、正確な手術のあり方を常に追求する。一〇〇%の患者さんが元気になるような、完全なる手術をめざしています」

その心臓外科のトップランナーは、高校時代に手塚治虫の『ブラックジャック』を読んで医師を志した。そこに名医の条件がある。

「医師に必要なすべてが、そこにはあります。自分自身を切磋琢磨し、日々研究。究極の人情があり、決して技術だけではないのです」

「常識」に抗って 早期がん発見に先鞭

大腸がんの世界の第一人者、昭和大学横浜市北部病院消化器センターの工藤進英センター長は、自身が考え、実践している「医師像」を披露した。

「患者さんの訴えること、そのポイントを素早く察知して知識と技術を持つて的

確に対応する。そして、行ったことはすべて責任を持つ。これが大事です。忙しい！ 面倒！ などとはとんでもない。

ちよつとした症状でも大腸がんのケースがあるのです。一刻でも早く発見すれば、

それだけ治る確率も高まります。私はどんなに予約がいっぱいでも「来週すぐに内視鏡を行いましょう」と対応します。

なによりも患者さん中心。それだと思えます」

「大腸がんでは死なせない」をモットー

に、患者を少しでも多く診察・検査しよう

と、工藤センター長は外来診察室を三部屋使って、自身が次々と部屋を移動して診察する。内視鏡検査では検査・処置

ブースを六つ使って、外来同様にぐるぐる回る。

それができるのは、工藤センター長が開発した「軸保持短縮法」という内視鏡の検査法と、「大腸拡大内視鏡」があるからで、五分もあれば患者一人の大腸内視鏡検査が終了する。

早く、確実な内視鏡検査法は「陥凹型

大腸がん」をより多く発見するために、努力の末にたどりついたものである。

新潟大学医学部時代、がん患者は今後ますます増加し、とりわけ大腸がんは、食生活の欧米化などの影響により大幅に増えると予測されていた。加えて、「臨床実習で初めて担当することになったのが大腸がんの患者さんだったのです」。

七三年、外科に入局した工藤センター長は新潟大学の関連病院の秋田赤十字病院へ出張し、大腸内視鏡に出会う。大腸内視鏡技術はまだ黎明期ではあったが、「将来、大腸内視鏡の時代がくる」と感じた。

七七年、千葉県がんセンターの狩谷淳医師（故人）が陥凹型早期大腸がんを報告当時、大腸がんはポリープが悪性化して進行すると信じられていた。

「私は常識とされていた学説に大きな違和感を抱きました」

陥凹型大腸がんを発見したいばかりに内視鏡の操作に明け暮れた。

八五年に秋田赤十字病院に移り、その

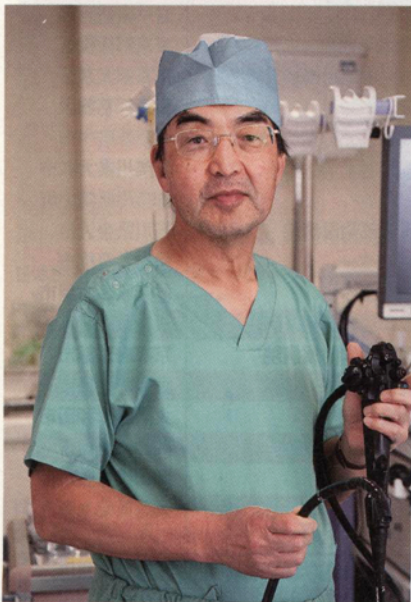
秋、遂に幻のがんに巡り合った。だが翌年、ブラジルの世界消化器病学会で報告するも、反応は芳しくなかった。

「日本では「秋田の風土病」とか「工藤病」といわれ、海外では「アジア病」など。いわれればいわれるほど、みんなもきちんと見つけるべきだ、という気持ちで募りました」

世界の壁は厚かったが、フランスで開催された欧州消化器内視鏡学会でライブを行うチャンスが訪れた。九六年のことである。南フランスの病院で大腸ポリープの患者を検査・診断する様子が衛星中継で学会会場に映し出された。そのとき、まったくの偶然に陥凹型早期大腸がんを発見したのだった。

「私を選んで招いてくれた学会長のリヨン大学のランベール教授が大変喜んでくれたにとどまらず、以来世界の風向きも変わりました。真実はどこにあるのか、常に関心を払うべきです。そして、継続は力なり」と、つくづく思います」

P



昭和大学横浜市北部病院消化器センター・センター長

工藤進英 ● Shinei Kudo

1947年、秋田県生まれ。73年新潟大学医学部卒。同大勤務を経て、85年秋田赤十字病院に赴任。同年、当時「幻のがん」だった陥凹型大腸がんを発見した。2001年昭和大学教授、同大横浜市北部病院副院長・消化器センター長着任。